

# 安全データシート

SDS No.1001-0311

作成日 2003年 7月24日  
改訂日 2020年12月 2日 1/6頁

## 1 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Dioctyl phthalate (DOP) 10% 白色珪藻土  
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社  
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F  
電話番号 : 03-5323-6611  
FAX番号 : 03-5323-6622  
製品コード : 1001-45120、1001-45121、1001-、1003-  
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)  
整理番号(SDS No.) : 1001-0311  
推奨用途及び使用上の制限 : 試験・研究用

## 2 危険・有害性の要約

当該製品はGC分析用充填剤です。本製品がカラムに充填された場合、外部に漏れ出すことはありませんが、情報提供の観点から、以下に充填剤の情報を記載します。

GHS分類 : 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2B  
発がん性 : 区分2  
生殖毒性 : 区分1B  
生殖毒性 : 追加区分  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分2(肝臓、精巣)  
水生環境有害性 短期(急性) : 区分2  
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分3

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 危険  
危険有害性情報 :  
H320 眼刺激  
H351 発がんのおそれの疑い  
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓、精巣)  
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
P263 妊娠中及び授乳期中は接触を避けること。  
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。  
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
P273 環境への放出を避けること。  
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急措置]

P305+P351+P338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
P308+P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の手当てを受けること。  
P314 気分が悪いときは医師の手当てを受けること。  
P337+P313 眼の刺激が続く場合、医師の手当てを受けること。

[保管]

P405 施錠して保管すること。

[廃棄]

P501 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類できない、分類対象外または区分に該当しない。

## 3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物  
 化学名(又は一般名) : Dioctyl phthalate (DOP) 10% 白色珪藻土

成分名	濃度	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法	安衛法	
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	20%	C <sub>24</sub> H <sub>38</sub> O <sub>4</sub>	3-1307	—	117-81-7
白色珪藻土	80%	SiO <sub>2</sub> (主成分として)	設定されていない		68855-54-9

## 4 応急処置

吸入した場合 : 新鮮な空気の所へ運び、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い場合には医師の手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 : 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。

眼に入った場合 : 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗うこと。こすると眼球を傷つける恐れがあるのでこすらないこと。医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合 : 水でよくうがいをし、大量の水を飲ませて、可能ならば吐かせること。気分が悪い場合には医師の手当てを受けること。

ばく露した場合 : 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。

急性症状及び遅発性症状の  
 最も重要な兆候症状 : 眼や皮膚、粘膜に接触すると刺激性がある。長期暴露により不快感、腹痛、下痢、吐気等の症状が出る恐れがある。

応急措置をする者の保護 : 救助者は適切な保護具を着用すること。

## 5 火災時の措置

## 5 火災時の措置

適切な消火剤 : 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤など周辺火災に適した消火剤

使ってはならない消火剤 : 棒状水

火災時の特有の危険有害性 : 火災時に刺激性もしくは有害なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。

特有の消火方法 : 移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

消火を行う者の特別な保護具  
 および予防措置 : 燃焼又は高温により有害なガスが発生するので、呼吸保護具を着用する。

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
 保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚や眼に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。  
 汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込めおよび浄化の方法および機材 : 適切な保護具をつけて処理すること。漏洩物を掃き集めて密閉できる容器に回収する。

## 7 取扱い及び保管上の注意

## 取扱い

- 技術的対策 : 眼、皮膚への接触を避ける。取扱後は手や顔をよく洗うこと。
- 安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。  
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵を発生させない。  
使用後は容器を密閉する。  
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。  
取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 衛生対策 : 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。  
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。  
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではない。

## 保管

- 適切な保管条件 : 直射日光を避け、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して施錠保管する。
- 技術的対策 : 特になし
- 混触危険物質 : 強酸化性物質、強酸化剤、強塩基
- 安全な容器包装材料 : ポリエチレン等(密閉できるもの)

## 8 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 : 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置する。  
機器類は防爆構造とし、設備には静電気対策を実施すること。  
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度

化学名	日本産業衛生学会	ACGIH	OSHA
Dioctyl phthalate (DOP)	5mg/m <sup>3</sup>		
白色珪藻土	吸入性粉塵 0.5mg/m <sup>3</sup> 、 総粉塵 2mg/m <sup>3</sup>	設定されていない	80mg/m <sup>3</sup> /%SiO <sub>2</sub>

## 保護具

- 呼吸器用の保護具 : 有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器
- 手の保護具 : 保護手袋
- 目の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
- 皮膚及び身体の保護具 : 長袖作業衣、保護長靴
- 適切な衛生対策 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取り扱い後はよく手を洗うこと。

## 9 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 粒状
- 色 : 白色
- 臭い : データなし
- 融点/凝固点 : データなし
- 沸点または初留点 : データなし
- 可燃性 : データなし
- 爆発下限界及び爆発上限界 : データなし
- 引火点 : データなし
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- pH : データなし
- 動粘性率 : データなし
- 溶解度 : データなし。水に不溶
- n*-オクタノール／水分配係数
- log Po/w : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 密度及び/または相対密度 : データなし
- 相対ガス密度(空気=1) : データなし

粒子特性	: 80/100 meshなど
1 0 安定性及び反応性	
反応性	: 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性	: 適切な保管条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 適切な保管条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、高温、混触危険物質との接触
混触危険物質	: 強酸化剤、酸性化合物、強塩基性物質
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素、有害なヒューム
1 1 有害性情報	
本製品の有害性区分は、混合物としてDOPの有害性区分を元に分類された。以下にはDOPの有害性情報を記載する。	
急性毒性	: 経口、経皮、吸入のいずれにおいても区分に該当しない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: ヒトにおいて、被験者23人の背部に本物質原液を7日間閉塞適用し、10日目に再適用した結果、皮膚反応は観察されなかったとの報告がある(EU-RAR,2003)。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: ウサギに本物質の原液0.1mLを適用した2件の眼刺激性試験(OECD TG 405)の結果、一方は結膜発赤及び角膜混濁・結膜腫脹の平均スコアはそれぞれ0.1及び0.0であり、もう一方は適用1時間後に軽度の結膜発赤(3/3匹)及び軽度の眼漏(1/3匹)がみられたが24時間以降に回復したとの報告がある。また、ウサギを用いた別の眼刺激性試験(FDA推奨法、GLP適合)において、本物質の原液0.1mLを適用した結果、1時間後及び24時間後に軽度の結膜発赤が見られたが、72時間後に回復した(EU-RAR, 2003)。
皮膚感作性	: モルモットを用いた2件の感作性試験(マキシマイゼーション法、ビューラー法)の結果、皮膚紅斑の要請反応は認められず、また対照群を含めて全てのモルモットに皮膚反応は認められず感作性を示さなかった。なお、被験者23人の背部に本物質原液を7日間閉塞適用し、10日目に再適用した結果皮膚反応は観察されなかったとの報告がある(EU-RAR,2003)。
生殖細胞変異原性	: EU-RAR(2008)、NICNAS(2010)では、in vivo、in vitroともに陽性結果が存在するが、遺伝子突然変異、染色体異常、DNA損傷の検出系で多くが陰性であり本物質に変異原性はないとしている。
発がん性	: IARC(2013)で2B、ACGIH(2001)でA3、日本産業衛生学会(2001)で第2群B、EPA(1988)でB2、NTP(2001)でRと分類されている。 なお、IARCは本物質及びPPARアゴニストの肝発がん性機序に関する情報を継続的に収集し、肝臓、精巣における増殖性変化はPPARによるげっ歯類特異的な毒性発現機序であるとの仮説だけでは説明できないとして2011年に本物質の発がん性を従来グループ3からグループ2Bに再変更した(IARC(2011),IARC vol.101(2013))。
生殖毒性	: マウスを用いた経口経路(混餌)での連続交配試験において、親動物毒性にみられた用量に関して明確でないが妊娠率の低下、産児数及び生存児数の減少がみられ、交差交配では雌雄両方の生殖能に関する影響が確認された。 ラットを用いた経口経路(混餌)での3世代生殖毒性試験において、精巣毒性がみられ精巣毒性がみられる用量よりも高い用量で生殖能に対する影響がみられた。 マウスを用いた経口経路(強制)催奇形性試験において、母動物毒性がみられない用量で、胎児毒性(吸収胚の増加、胎児死亡、外表奇形及び内臓奇形の増加)がみられた。雌ラットを用い、妊娠期間中及び授乳期間中に経口経路(飲水)でばく露した試験において、母動物毒性がみられない用量で児動物毒性(精巣の精細管上皮の変性、腎臓の糸球体腎炎の兆候を伴う糸球体萎縮)がみられた(EU-RAR(2008), NITE初期リスク評価書(2005))。 また、妊娠期間中及び授乳期間中の母動物に対する投与において児動物毒性がみられたとの報告がある。 なお、本物質は産衛学会勧告(2014)において生殖毒性物質の第1群として分類されているが、暫定期間中であるため採用しなかった。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 本物質は気道刺激性がある(環境省リスク評価第1巻:環境リスク初期評価(2002), ACGIH(7th,2001),HSDB(Access on August 2014))。 ヒトでは多くの事例が報告されているが、本物質のみによる急性の毒性症状と判断できるものは少ない。多量の経口摂取で腹部の痛み、下痢が報告されている(環境省リスク評価第1巻:環境リスク初期評価(2002),ACGIH(7th,2001),HSDB(Access on August 2014),ATSDR(2002),DFGOT vol.25(2009),EHC 131(1992),EU-RAR(2008), NICNAS(2010))。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: ラットの13週間又は2年間混餌投与試験で精巣への影響(セルトリ細胞の空胞化、両側性無精子症)、及び肝臓への影響(重量増加、肝細胞肥大)がいずれも区分2の範囲内(精巣: 28.9-37.6 mg/kg/day、肝臓: 37-63 mg/kg/day)で見られている(ATSDR(2002),EU-RAR(2008))。
誤えん有害性	: データなし
1 2 環境影響情報	
水生環境有害性 短期(急性)	: 甲殻類(ミジンコ) EC50=0.133mg/L,48h(環境省リスク評価第1巻(2002),NITE初期リスク評価書(2005))
水生環境有害性 長期(慢性)	: BOD=69% (28日間)で急速分解性があり、甲殻類(オオミジンコ)のNOEC=0.077mg/L, 22dである(環境省リスク評価第1巻,2002)。
残留性/分解性	: BOD=69%(28日間)で急速分解性はある。
生態蓄積性	: データなし
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品中の成分はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
1 3 廃棄上の注意	
残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
1 4 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: 3077
品名	: 環境有害物質(固体)
国連分類	: 9
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: 3077
品名	: 環境有害物質(固体)
国連分類	: 9
容器等級	: III
国内規制	
陸上規制	: 国内法令の規定に従う。
海上規制	: 船舶安全法の規定に従う。
UN No.	: 3077
品名	: 環境有害物質(固体)
国連分類	: 9
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
UN No.	: 3077
品名	: 環境有害物質(固体)
国連分類	: 9
容器等級	: III
緊急時応急措置指針番号	: 171
1 5 適用法令	
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9 No.481(フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))
化管法	: 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) No.355(フタル酸ジ(2-エチルヘキシル))
化審法	: 優先評価化学物質(法第2条第5項)
船舶安全法(危規則)	: 環境有害物質(固体)
航空法	: 環境有害物質(固体)
海洋汚染防止法	: 非該当
大気汚染防止法	: 有害大気汚染物質(中環審第9次答申)

---

水質汚濁防止法	: 指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)
土壤汚染対策法	: 非該当

---

1.6 その他の情報

引用文献

ezSDS、ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)  
化学品安全管理データブック、化学工業日報社  
16918の化学商品、化学工業日報社(2018)  
航空危険物規則書 第52版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。